

近世・近代史料目録総覧

国文学研究資料館史料館編
東京 三省堂発行 1992. 4
xii, 453 p 27cm ¥9,000

本書は国文学研究資料館史料館（通称国立史料館）が、平成3年に創立40周年を迎えたのを記念して発刊されたものである。

史料館においては昭和26年創立以来、積極的に近世・近代の史料を調査、収集、保存、そして利用・公開（閲覧サービス）を行っているが、それだけでなく「全国に及ぶ史料の

所在情報を集約することが、わが国の史料保存利用体制確立の基盤であるとの考えのもとに(本書「解題」より)史料の所在情報の集積を継続していることはよく知られているところである。その蓄積された史料情報は、昭和55年に『史料館所蔵目録一覧』として刊行されているが、本書はその後の新しい情報を盛り込み、「増補改訂版」(「はしがき」)として今回の刊行にいたったものである。

収録されているものは、史料館が平成3年10月現在で所蔵する目録類及び、地方史誌類や逐次刊行物に収録されている目録類で、約4,700タイトル、8,700冊である。昭和55年発行の目録一覧での収録件数は、1,050タイトル、2,100冊であるから単純に12年でタイトル数で3,650、冊数で6,600の増加ということになる。いかに国立の機関といえども全国的な規模で目録類を収録するということは、「じつと」していたので不可能なことであり、この間の史料館の収集努力がしのばれる。

収録された目録は、発行所を基準に都道府県別にわけ、書名・副書名・編者・出版地・発行所・発行年・ページ数・大きさ・内容注記(一般注記)・関係地・所蔵者・請求記号など、一般利用の検索に必要なデータはかなり詳細に知ることができる。

本書の特徴のひとつに巻頭に「本書を刊行するに至った経過と問題点、さらに今後の課題について」を述べた「解題」が付されている。そこには「史料所在情報の調査・収録経過」・「本書の編集」・「本書の利用」・「今後の課題」等が示され、また本書を編集するうえで大きな力となった、「史(資)料目録類の書誌データベースの作成」の項では史料館が行っている文部省科学研究費のプロジェクトによる事業の一端が紹介され、本書の編集との関連が説明されている。さらにこのデータベースの構造とタグの一覧が図表として挿入されている。このデータベースが本書とは別に早く研究者の共通財産として公開されることを期待しよう。

また、本書に収録された目録には、前述の

ごとく単行本として刊行されたものばかりでなく、普通あまり目に触れる機会が少ない雑誌形態のなかの一部として収録された目録も含んでおり、この点も特色のひとつであろう。ここで収録された目録は、当然ではあるが、すべて史料館で閲覧公開されており、利用することができる、とともに「本書刊行後の新着目録類については、追加分リストとして史料館閲覧室に備え付ける予定であるし、追加量を見計らっていずれ増補改訂版を出版することを考慮している」(「解題」)としている。しかし、あえて無理な注文をすれば、本書の購読者に対しては(せめて県立規模の公共図書館あたりまでは)何等かの方法で、逐次提供できるレターがあればアフターケアとして非常に役に立つと考えるが、いかがなものか。

いずれにしても記念刊行物としての「ラッキー」な贈り物を我々は史料館から戴いたことになる。今後の活動に期待したい。

佐藤 勝巳・戸田市教育委員会